

会 議 録

議事録名		部長	課長	企画幹	係長	係	記録
佐久市保健福祉審議会							
日 時	令和5年7月25日	場 所	南棟3階会議室		時 間	10時～11時30分	
出席者	○委員 堀内ふき会長、小平實副会長、和田裕一委員、今村健之委員、両澤正子委員、菊原長子委員、山田美登里委員、草間信子委員、柳澤四郎委員、林さと美委員、桜井美智子委員、白石奈美委員 ○事務局 市長、福祉部長、福祉課長、健康づくり推進課長、高齢者福祉課課長補佐、担当係長4名、担当係員1名				出席委員	12名	
					欠席委員	12名	
					事務局	10名	
提出資料	資料1-1 第三次佐久市障がい者プラン（骨子案） 資料1-2 第三次佐久市障がい者プラン策定に係るヒアリング調査結果 資料1-3 第三次佐久市障がい者プランの策定スケジュール 資料1-4 第三次佐久市障がい者プラン（骨子案）に係る意見書様式 資料2-1 佐久市老人福祉計画・第9期介護保険事業計画策定にあたって 資料2-2 佐久市老人福祉計画・第9期介護保険事業計画策定スケジュール 資料3 「第2次佐久市健康づくり21計画」の計画期間の延長について						
○次第							
1 開会							
2 委嘱							
3 市長あいさつ							
4 諮問							
5 審議事項							
<ul style="list-style-type: none"> ・第三次佐久市障がい者プラン（骨子案）について 							
6 連絡事項							
<ul style="list-style-type: none"> ・佐久市老人福祉計画・第9期介護保険事業計画（骨子案）の審議状況について ・第2次佐久市健康づくり21計画の計画期間の延長について ・「佐久市再犯防止推進専門委員会」の設置について 							
7 その他							
8 閉会							
○議事録（質疑応答）							
＜第三次佐久市障がい者プラン（骨子案）について＞							
委 員 佐久市のヤングケアラーの状況について教えてほしい。							

事務局 ヤングケアラーは佐久市内でも確実に存在している。所管は子育て支援課が中心となり、関係機関で連携して対応している。また、市役所関係者だけでなく児童相談所等とも連携して支援している。数については現在調査中である。

委員 発達障がいについて、佐久市でも療育支援センターを中心に小学生くらいまでは手厚く支援してもらっているが、中学生になるとなかなかフォローしきれないように感じる。教室から出て学習室などに閉じこもってしまったり、不登校になってしまったりする子ども多いと聞く。教育委員会の所管とも思うが、市全体で支援体制として、教育場面と違う対応がされているのかお聞きしたい。

事務局 小さい子どもの療育という面では、乳幼児健診からつながって手厚くなっているが、年を重ねるとともに、社会の枠組みの中に適応していかなければいけない中で対応が難しくなっている方もいらっしゃるのが事実である。今回のプランにおいても、「療育・保育・教育の充実」の中で、保健、福祉、教育まで含めて具体的な取組を検討していきたいと考え調整をしている。

委員 中学を卒業してしばらくは、中学のほうでその子の支援体制を継続しているという話を聞くが、先生方が変わってしまうと、その子どもをフォローしきれないのが現実である。さらにそこから年齢を重ねれば把握できない状況がかなり出てくると思う。市の保健師は、乳幼児健診などで幼児期までは全部把握していると思うが、小学校、中学校となるにつれ、また引きこもりになってしまったような場合、課題を把握しきれないと思うので、どのように解決づけていくのか、今後の課題として検討を深めてほしい。

委員 子どもの発達に関して、はっきりと集団に適応できないとか、自閉症と診断された子どもには手厚く対応できているが、そのはっきりする手前の、親もまだ認めたくない、そういう子どもに対してのアプローチが非常に難しいと感じている。他の市町村の様子を聞くと、現在佐久市では行っていない6歳児健診、5歳児健診をやっているという話を聞いた。学校に上がるのに向けて受ける健康診断や、ちょっとした知能テストなど、先生とやり取りする検査があると思うが、そのような子どものもう少し深いところ心の声を拾うことが5歳・6歳児健診でできれば、小学校に上がる前段階で困っている子どもの救いの手になるのではと思う。

事務局 数年前に5歳児健診の話があったが、保護者の負担なども考え実施に至っていない。手法はともかくとして、子どもに十分な成長が認められない、それを受け入れられないというような保護者へのアプローチは必要と考えている。現在、相談の機会として、保育園等に心理士や保健師等が出向く「はぐくみ相談」を実施し、保護者等の相談の場を設け対応を図っている。引き続き検討を深めていきたい。

(以上)